

平成 21 年 6 月 22 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2005～2008
 課題番号：17520084
 研究課題名（和文） 北陸における説話画—その機能と展示の変遷および現代に生きる意味—
 研究課題名（英文） A Study of Narrative Paintings in the Hokuriku District

研究代表者
 原口志津子（HARAGUCHI SHIZUKO）
 富山県立大学・工学部・教授
 研究者番号：40208666

研究成果の概要：北陸には特色ある中世の説話画が存し、しかも、現在においても絵解きがなされ、説話画の機能が生きている。また、近代的なミュージアム展示の前史たる、霊宝の御開帳、宝物展示が行われている。原口、太田、山崎は、これらの実態調査と所蔵品の悉皆調査を行い、調査報告書を刊行した。また、太田と原口は説話画の研究会を行ったほか、画家・石崎誠和の協力を得て、複雑な記号内容をもつ本法寺所蔵「法華経曼荼羅」の描き起こし図を作成し、知見を深めた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	1,300,000	0	1,300,000
2006年度	1,000,000	0	1,000,000
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,700,000	420,000	4,120,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学美術史学

キーワード：展示、コレクション、霊宝、絵解き、勸進、説話イメージ

1. 研究開始当初の背景

(1) 北陸には特色ある中世の説話画が存し、しかも、現在においても絵解きがなされ、説話画の機能が生きている。また、霊宝の御開帳、宝物展示が現在も盛んに行われている。しかし、これらは、主に文学、宗教史、芸能史的アプローチにより、精力的に研究されてきており、

美術史的な観点からの研究が少なかった。

(2) 明治時代に開始されたさまざまな美術制度や博覧会などの近代的な装置についての研究は盛んであったが、その前史についての研究が立ち遅れていた。

2. 研究の目的

- (1) 北陸の大寺院所蔵品を総合的に調査することで、霊宝や宝物コレクションがどのように形成されてきたのかを解明する。
- (2) 絵解きや霊宝展示の歴史的変遷を解明する。
- (3) 説話画の写真資料収集することによって、図像比較を行い、説話イメージの共有のあり方を研究し、近代的なオリジナリティ幻想（オリジナリティが創作のすべてであるという言説）の解体を行う。

3. 研究の方法

- (1) 富山県南砺市城端別院・善徳寺の虫干法会、南砺市井波別院瑞泉寺の太子伝会の実態調査。
- (2) 善徳寺、瑞泉寺と、高岡市伏木・勝興寺の所蔵品の実地調査。
- (3) 画家・石崎誠和による富山市八尾町・本法寺所蔵「法華経曼荼羅」の描き起こし図の制作。
- (4) 収集資料を検討する説話画研究会を行う。

4. 研究成果

- (1) 4カ年の研究期間のうち、3カ年を主に北陸における寺院所蔵書画美術工芸品の実地調査・写真撮影にあて、実施した。2年目以降は山崎剛が参加し、充実した調査となった。『越中東方触頭寺院善徳寺歴史資料調査報告』、『勝興寺宝物展図録』等にそれらの成果が反映されている。
- (2) 北陸の説話画のうち、とりわけ浩瀚な富山市八尾町本法寺蔵「法華経曼荼羅」二十二幅の描き起こし図を作成した。描き起こし図作成にあたった日本画家・石崎誠和には、その作成手順と、作成過程から得られた知見をレポートしてもらい、本法寺本がどのような過程を経て作成されたのか、そしてまた見る者

にどのように体験されたのかというという、いわば「絵の現場」を追体験した。

- (3) 太田昌子は複雑な記号内容をもつ説話画の読み取りにきわめて有効な概念である「空間細胞」を提唱し、説話画の記号内容の理解を深めた。
- (4) 原口志津子は、本法寺所蔵「法華経曼荼羅」に関する研究の一部を、ハーバード大学ライシャワー研究所で発表した。
- (5) 今後、本法寺所蔵「法華経曼荼羅」等のカラー図版を含む総合的研究書刊行を目指したい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

- ①原口志津子、江戸時代における瀟湘八景の作例紹介—勝興寺所蔵品から—、富山県立大学紀要、無、第16巻、2006、pp. 1-16
- ②原口志津子、善徳寺の女性に関わる書画と展示の事例、富山県立大学紀要、無、第17巻、2007、pp. 114-124
- ③山崎 剛、文化財保存の現場から：祭礼のかざり—長山曳山飾り金具—、宗桂会だより、査読無、第19号、2006、pp. 6-8
- ④原口志津子、高岡・大法寺所蔵新出五幅対について、富山県立大学紀要、無、第18巻、2008、pp. 97-110
- ⑤太田昌子、近世後期の城郭建築にみる障壁画と儀礼—文化庁造営金沢城二ノ丸御殿の障壁画と年頭儀礼をめぐって—、石川県金沢城調査研究室『金沢城研究』、無、第6号、2008、pp. 16-42
- ⑥山崎 剛、在チェコ共和国日本漆器調査報告—17世紀の作例を中心に—、鹿島美術研究年報、無、第24号別冊、2007、pp. 475-484

⑦山崎 剛、日本における工芸博物館の起源、日本藝術の創跡—84 万日の美術館、無 2007 年度版、pp. 276-281

⑧太田昌子、法隆寺の聖徳太子絵伝を読み解く—絵の描かれた「信仰環境の総体」をテキストとして、名古屋大学 GCOE プログラム・第 4 国際シンポジウム「日本における宗教テクストの諸位相と統辞法」報告書、有、2008、pp. 299-313

⑨太田昌子、金箔からみた文化度金沢城二ノ丸御殿—『御造営方日並記』を主要資料として、金沢美術工芸大学紀要、査読有、53 号、2009、pp. 139-154

⑩原口志津子、法華経曼荼羅と女人成仏—富山市・本法寺所蔵本を中心に、「日本の宗教とジェンダーに関する国際総合研究—尼寺調査の成果を基礎として—」科研報告書本文編 I、2009、pp. 91-97

[学会発表] (計 3 件)

①原口志津子、法華経曼荼羅と女人成仏—富山市・本法寺所蔵本を中心に—
International Symposium Beyond Buddhology、2007 年 11 月 2 日、Edwin O. Reischauer Institute, Harvard University

②太田昌子、法隆寺のふたつの聖徳太子絵伝を読み解く—絵の描かれた「宗教環境の総体」をテキストとして—、名古屋大学 GCOE 「テキスト布置の解釈学的研究と教育」第 4 回国際研究集会、2008 年 7 月 21 日、名古屋大学文学部

③原口志津子、「吹抜屋台」について—源氏物語絵巻を中心として—、京都大学文学研究科国際シンポジウム/GCOE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」共催/京大以文会協賛 世界の中の『源氏物語』— その普遍性と現代性 —、2008 年 12 月 14 日、京都大学時計台ホール

[図書] (計 7 件)

①長岡龍作/太田昌子/木下直之/海老根聰郎/高橋範子/榊原悟/根立研介/加須屋誠/奥健夫/大久保純一、講座日本美術史 4・造形の間、東京大学出版会、2005、pp. 45-90

②宮島新一/今井成亨/末柄豊/定塚武敏/原口志津子/鴨川達夫/久保尚文/佐伯安一/金龍教英/古岡英明、高岡市教育委員会、勝興寺宝物展図録、2005、総頁 204

③山崎 剛 (分担執筆)、世界文芸社、日本藝術の創跡—出逢う美術、繋ぐ美術—、2006、総頁 500

④太田昌子 (編集・監修)、金沢芸術学研究会、絵手本シンポジウム報告書—江戸の出版文化に始まったイメージ革命—、2007、総頁 180

⑤原口志津子/山崎剛 (分担執筆)、富山県南砺市教育委員会、越中東方触頭寺院善徳寺歴史資料調査報告、2008、総頁 484

⑥山崎剛 (共著)、「工芸」シンポジウム記録集編集委員会編、美学出版、美術史の余白に—工芸・アルス・現代美術—、2008、総頁 419 (pp. 67-75)

⑦石崎誠和/太田昌子/原口志津子、チューエツ印刷、本法寺蔵法華経曼荼羅描き起こし図、2009、総頁 30

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

原口 志津子 (HARAGUCHI SHIZUKO)
富山県立大学・工学部・教授

研究者番号：40208666

(2)研究分担者

太田 昌子 (OTA SHOKO)

金沢美術工芸大学・美術工芸学部・教授

研究者番号：00285173

山崎 剛 (YAMAZAKI TSUYOSHI)

金沢美術工芸大学・美術工芸学部・准教授

研究者番号：70210391

(3)連携研究者